

市販のベビーフードに起因する脚気の幼児例

南里亜由美^{†1)} 緒方 怜奈¹⁾ 牧村 美佳¹⁾³⁾ 山口賢一郎¹⁾
 渡辺 恭子¹⁾ 山下 博徳¹⁾ 宗 秀典²⁾ 宗 稔²⁾

IRYO Vol. 75 No. 2 (166-169) 2021

要 旨

症例は1歳5カ月男児。発熱を契機として徐々に活気が低下したため入院した。全身浮腫、大呼吸があり、傾眠傾向で、深部腱反射は消失していた。代謝性アシドーシスと低ナトリウム血症を認め、心エコーにて高心拍出状態を認めた。症状および異常所見はビタミンB₁投与により約2週間で改善した。入院時の血中ビタミンB₁は低値であり脚気と診断した。病前、患児は偏食が強く、主な食事内容は市販されているレトルトのベビーフード（1歳4カ月児対象）と白米、特定の菓子、清涼飲料水（スポーツドリンク）のみであった。患児の清涼飲料水摂取量は500 ml/日程度であり、これまでに報告されている乳幼児の清涼飲料水多飲（1日1.0 l以上）による脚気の症例に比べると少ない量であった。市販のベビーフードにビタミンB₁含有量の表示はなく、筆者らが独自に調査を行ったところ、非常に少ないことが判明した。患児は病前よりビタミンB₁をはじめとする栄養摂取不足があったことが推定されたが、母親にはその認識はなかった。市販のベビーフード単独を副食とするなど極端な場合には、ビタミンB₁をはじめとするさまざまな栄養素が不足してしまう可能性があり注意が必要である。

キーワード ベビーフード, 脚気, ビタミンB₁

はじめに

脚気はビタミンB₁の欠乏によっておこる。今回われわれは、副食として市販のベビーフードのみを摂取していた児で、発熱を契機に脚気を発症した幼児を経験した。市販のベビーフードの不適切な使用はビタミンB₁欠乏をおこしうるため注意が必要である。

症 例

1歳5カ月男児
 主訴：活気不良，全身浮腫
 現病歴：入院23日前に38℃台の発熱を認めた。かかりつけ医を受診し、同時に発熱した兄がインフルエンザA型と診断されたことから本人は迅速検査を施行されずオセルタミビルを処方された。翌日には解熱したが活気不良となり、座位や臥床で過ごすこと

1) 国立病院機構小倉医療センター 小児科 2) そお小児科クリニック 3) 福岡市立こども病院 †医師
 著者連絡先：南里亜由美 国立病院機構小倉医療センター 小児科 〒802-8533 福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘10-1
 e-mail: nanri.ayumi.mz@mail.hosp.go.jp
 (2020年6月9日受付, 2020年11月13日受理)

A Case of Infantile Beriberi Caused by Commercial Baby Food
 Ayumi Nanri¹⁾, Reina Ogata²⁾, Mika Makimura¹⁾³⁾, Kenichiro Yamaguchi¹⁾, Kyoko Watanabe¹⁾, Hironori Yamashita¹⁾,
 Hidenori So²⁾ and Minoru So²⁾, 1) NHO Kokura Medical Center, 2) SO SHONIKA Clinic, 3) Fukuoka Children's
 Hospital

(Received Jun. 9, 2020, Accepted Nov. 13, 2020)

Key Words : commercial baby food, beriberi, Vitamin B1